

ケニア山のチンダル氷河における近年の氷河変動とデブリ地形の形成 Recent glacier variations and debris landform at Tyndall Glacier of the Mt. Kenya.

*奈良間 千之¹、大谷 侑也²、水野 一晴²

*Chiyuki Narama¹, Yuya Otani², Kazuharu Mizuno²

1. 新潟大学理学部理学科、2. 京都大学大学院文学研究科

1. Niigata University, Department of Science, 2. Kyoto University, Graduate School of Letters

ケニア山に位置するチンダル氷河は、1919～1994年までの75年間に高度で80m、距離で300m後退した（水野，1995）。その変化は、1958～1984年の26年間で75m後退し、1984～1992年の8年間で23m後退しており、後退速度は前半が2.9m/yr (Coe, 1967; Spence 1989)、後半が2.9m/yrであり、ほぼ等速度で後退している。氷河前面には、この後退時に形成された埋没氷を含むデブリ地形が形成されている。地中レーダー探査によって内部構造を調べたところ、2.5mの厚さのデブリ地形であり、氷河の後退時にデブリと氷を堆積した。このデブリ地形は、1984年の後退箇所ですべて1か所で形成されているにすぎず、氷河の停滞時に堆積したものと考えられる。

キーワード：チンダル氷河、デブリ地形、地中レーダー

Keywords: Tyndall Glacier, debris landform, GPR